

## JOMF 派遣医師便り (2015. 12)

### ◆ジャカルタ◆

### 乳がんについて (No. 3)

JJC 医療相談室

伊藤 通敏

乳がんの治療には、

- 1) 手術
- 2) 放射線治療
- 3) 抗がん剤治療 & 分子標的治療
- 4) ホルモン剤治療

大きく分けて、4種類あります。

#### 1) & 2)

手術には、乳房の一部のみを切除する、乳房部分切除手術（温存手術）と、乳房全部を切除する乳房切除術があります。

ちなみに、乳房部分切除術をすると、後日に、手術で残した乳房に、放射線治療が行われます。

乳房部分切除術＋放射線治療した場合と、乳房を全部切除した場合との、治る割合は、同じと言われています。

#### 3)

乳がんの手術をした後に、がんの部分を顕微鏡で見て、がんの広がりやがん細胞自体の悪性度、リンパ節の転移のあるなしによって、手術後に、抗がん剤治療を行うかどうか決めます。

抗がん剤治療は、外来通院で、約6ヶ月近くかけて行います。

また、抗がん剤治療の後に、分子標的治療も、追加する場合があります。

#### 4)

乳がんの細胞を調べて、ホルモン剤に対して、感受性が有るか無いかで、ホルモン療法（飲み薬）を、行うか行わないかを決めます。

ホルモン剤に、感受性のあるがんの細胞であった方は、手術後約5年間、場合により、約10年間、ホルモン剤を飲みます。

手術後の、抗がん剤治療、分子標的治療、ホルモン治療は、少しでも再発を抑える目的で行います。

この様に、乳がんの治療は長期に渡るので、患者さんの、肉体的&精神的、さらには、経済的負担が、大きくなるしかかってきます。